

ネットワーク

くすりと健康 NO. 41

発行責任者 平林 政子

発行/株東京医療問題研究所 〒164-0001 中野区中野 5-47-10 TEL.03(3389)7110

光線過敏症って？



～光線過敏症をご存知ですか?～



光線過敏症とは?

日光アレルギーとも呼ばれ、日光にあるとその日光の当たった部分に炎症が起きることを言います。皮膚にぶつぶつができたり、赤く腫れたりするような症状を呈します。

● 普通の日焼けとはどう違うの?

『日焼け』はある程度以上の紫外線が当たれば誰にでも起こります。

一方、『光線過敏症』は普通なら影響のない程度の紫外線でも敏感に反応して皮膚に炎症を起こしてしまうもののことを言います。

● どんな原因で起こるの?

- ・ 体の中の働き(免疫機能)に異常があると起こることがあります。
- ・ シップを貼った箇所に日光が当たったときにも発症することがあります。
- ・ ある種の内服薬によっても起きやすくなることが分かっています。

今回は特に、薬剤の副作用による光線過敏症についてお話します。

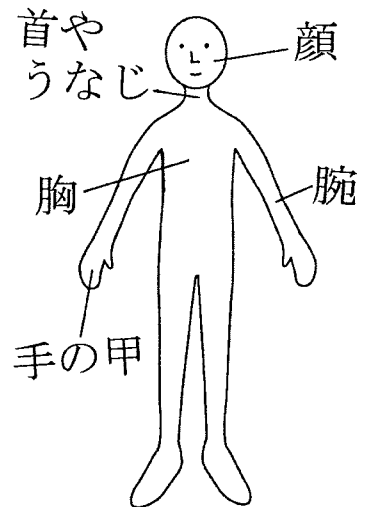


体のどこに起きやすいの?

服に覆われていない箇所で起き、服などに覆われている箇所には起こりにくいとされています。

手の甲・胸・腕・首やうなじ・顔などに多くみられます。

※日の当たっていない箇所にも同時に湿疹などができるようであれば、光線過敏症以外の原因があると考えられます。



どんな症状?

皮膚が露出していて、日光があたっている箇所に下記の症状が見られます。

- ・ 赤いぶつぶつができる(発疹・発赤・じんましんなど)。
- ・ 日焼けをしたように赤くなる。
- ・ 強いかゆみや刺激感がある。
- ・ 水ぶくれ(水疱)ができる。
- ・ 皮膚が乾燥する。

※ひどくなると症状が全身に広がることもあり、関節炎や気管支炎の原因となる場合もあります。



光線過敏症を起こしやすい薬とは？

最も光線過敏症を起こしやすいとされている薬は

シップ薬(モーラス、モーラステープ、ミルタックスなど)

これらのシップに含まれる痛み・炎症止めの成分『ケトプロフェン』が日光によってかぶれを起こしてしまいます。

シップをはがした後もしばらくは起こる可能性があります。

※市販で買えるシップ薬にも同じ成分が入っているものがあるので注意！！

●貼り薬だけでなく下記のような内服薬でも光線過敏症が起こる事があります●

※主に当薬局で使われている薬です

- ① 抗生物質(クラビット、ウイントマイロン)
- ② 利尿薬(フルイトラン、ラシックス)
- ③ 糖尿病薬(ダオニール、オイグルコン、グリミクロン、アマリール、ボグリボース、ベイスン)
- ④ 高脂血症薬(プラバスタチンナトリウム、リピトール、ベザテートSR、リピディル)
- ⑤ 抗精神病薬(セレネース、コントミン、レボトミン)
- ⑥ 抗うつ薬(パキシル、トフラニール)
- ⑦ 鎮痛薬(ボルタレン、ハイペン、ナイキサン)
- ⑧ 抗ヒスタミン薬(ポララミン、プレチア、ゼスラン)

※その他、食べ物(そば、セロリ、イチジク、あわび、どくだみ、クロレラ)、健康食品・ビタミン剤・ドリンク剤・化粧品などで起こることもあります。

気になる症状がある方は
医師・薬剤師にご相談ください。





光線過敏症はどう予防すれば良い？

- 1、服やサポーターなどでできるだけ皮膚を覆い、日光に当てないようにします。
- 2、日焼け止めを使い、紫外線を防ぎます。「PA+++」と書いてあるものがお勧めです。
※『PA』は光線過敏症を起こしやすい紫外線を防止する効果の高さを示しています。
- 3、シップを使用している場合は、その箇所を日光に当てないように心がけます。また、シップをはがしてから4週間くらいは長時間日光に当てないようにします。
- 4、薬を使っている間は屋外での作業は控える方が良いでしょう（海水浴、炎天下での屋外作業、ゴルフ・テニスなどのスポーツは控えることが大切）
※ 外に出なくてはならない時は、長袖・手袋・帽子・日傘などでできるだけ体を覆うようにしましょう。



光線過敏症が起きてしまったら？

- 1、シップが原因の場合はすぐにはがし、貼っていた場所を洗う。内服が原因の場合は医師・薬剤師に相談して下さい。
- 2、患部に日光に当てないようにします。
※曇りの日、ガラス越しでも起こることがあります。
車の運転をするときにも注意しましょう！
- 3、患部を服やサポーターなどで覆います。
※濃い色の服、暗めの色服ほど日光を防ぐ効果が高いです。
- 4、症状がひどい場合（ひどい日焼け様症状、浮腫、発疹）はすぐ受診して下さい。症状の程度によっては薬による治療を行うこともあります。



《病院で受けられる検査》

薬物による光線過敏症の原因を検討する方法として用いられます。

- ①光線テスト……特定の光を当て、湿疹のできる量を測定します。
- ②光線貼付試験…原因だと思われる薬を背中などに張り、1～2日後その場所に特定の光を当て反応を見ます。
- ③照射試験……原因だと思われる薬を飲んだときと飲まなかったときで光線を照射し、その反応を見ます。